

## 「履歴書」及び「教育研究業績書」の記入上の注意について

(平成25年7月16日学長裁定)

### 1. 履歴書

- (1) 「学歴」について  
高等学校又は高等学校と同等以上と認められた学校の卒業を含み、それ以後の入学、修了等のすべてについて記入し、学位、称号についても記入してください。
- (2) 「職歴」について  
職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても記入してください。なお、大学院博士課程の教員として資格があると認められた者は、当該審査に係る大学名、審査の年月、職名、担当授業科目名及び判定結果を記入してください。
- (3) 「学会及び社会における活動等」について  
専攻・研究分野に関連する学会、その他の団体の所属の状況について記入してください。
- (4) 「賞罰」について  
賞については、社会的評価の高い学術的な賞を記入してください。(個々の業績について与えられた賞は、「教育研究業績書」の当該業績の概要欄に記入してください。)
- (5) 「職務の状況」について  
ア 記入日現在における職務の状況について記入してください。  
イ 「毎週担当授業時間数」については、下記の算出方法による「授業科目の1週1人当たり時間数」を記入してください。  
※ 算出方法：本学の例を下線で示してありますが、授業を実施している大学の単位数の計算の基準に基づき算出してください。  
① 授業科目の単位数 × 時間数 (講義・演習 1 単位 15 時間、実験・実習・実技 1 単位 30 時間)  
= 授業科目の年間時間数  
② 授業科目の年間時間数 ÷ 年間週数 30 週 (前期又は後期のみの場合は 15 週)  
= 授業科目の1週当たり時間数  
(前期又は後期のみの場合は、備考欄に「前期」又は「後期」と記入してください。)  
③ 授業科目の1週当たり時間数 ÷ 担当者数 = 授業科目の1週1人当たり時間数 (小数点以下第3位切捨)  
④ 2年以上にわたる授業科目の場合は、総単位数を年数で除し、1年間当たりの単位数で時間数を算出してください。  
⑤ 集中講義の場合は総時間数を記入し、備考欄に「集中」と記入してください。  
なお、同一大学の専任学部 (又は所属) 以外の学部の授業を担当している場合は兼任の欄に、専任大学以外の大学の授業を担当している場合は兼任の欄に記入してください。  
ウ 大学以外の学校、研究所等に勤務しているときは、様式に準じ職務内容の概要がわかるように記入してください。

### 2. 教育研究業績書

- (1) 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」について  
「事項」の欄については、担当予定授業科目及び専攻・研究分野に関連する「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」(別紙参照)を年月日順に簡潔に記入してください。
- (2) 「著書、学術論文等の名称」について  
担当予定授業科目及び専攻・研究分野に関連する「著書」、「論文」、「作品・演奏発表」、「競技歴・指導歴・審査歴」及び「教育実践に関する業績」(別紙参照)なお、各項目に序列はありませんので、希望する順に記入してください。)に区分し、それぞれについて、発行、発表の年月日順に記入してください。  
また、次の点に御留意願います。  
① 博士論文、修士論文については、名称の次に(〇〇論文)を付してください。  
② 投稿中のものは、記載しないでください。(ただし、学会誌等に掲載予定であり、その証明があるものを除く。)  
③ 学会の口頭発表については、記載しないでください。(ただし、講師、助教、助手の任用については、「3. その他参考資料」に記載してください。)  
④ 著書、学術論文等の名称が外国語である場合は原語で記載し、括弧書きで日本語訳(英語を除く。)を付してください。
- (3) 「発行所、発表雑誌等又は発表学会名等の名称」について  
著書、学術論文等の発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称及び巻号を記入してください。
- (4) 「概要」について  
教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び著書、学術論文等の概要について、教育上の能力に関する事項の各欄、職務上の実績に関する事項及び各著書、学術論文等ごとに、200字程度で記入してください。  
なお、著書、学術論文等はその全頁数も記入し、学術論文等で共著の場合は、担当部分を「担当部分：研究の企画、〇〇のデータ分析、〇〇部分の原稿執筆」のように明記してください。当該著書の全頁数及び本人を含む主要な著作者(3名以内)の氏名を、該当著書等に記載された順に従って記入してください。(3名を超える場合は、「外〇名」と付記してください。)

### 3. その他参考資料

「履歴書」及び「教育研究業績書」に記載されなかった研究・教育活動で、特に顕著な業績を記入してください。

- 例えば (1) 国際活動及び政府、学会、大学活動での顕著な業績  
(2) 講師、助教、助手の任用については、学会の口頭発表

※ 日付の記入は、原則和暦としてください。なお、「2. 教育研究業績書」については、西暦でも可とします。

## 教育研究業績の区分

## 「教育上の能力に関する事項」

- ・ **教育方法の実践例**
  - 例 ・ 優れた教育方法の実践例，マルチメディア機器を活用した授業方法，学生の授業外における学習促進のための取り組み，授業内容の公開 等
- ・ **作成した教科書，教材**
  - 例 ・ 作成した教科書，教材，講義で教科書として使用している著書，教材等の概要（後の「著書，学術論文等」との重複も可。その場合「(再掲)」と表示）
- ・ **当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価**
  - 例 ・ 各大学での自己点検・評価の一環として，教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容）
  - ・ 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
  - ・ 学生による授業評価，教員同士の相互評価等をまとめたもの
  - ・ 上記以外で，学長，学部長，諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載） 等
- ・ **学生指導の実績**
  - 例 ・ 卒業論文，修士論文及び博士論文の指導実績 等
- ・ **その他**

「教育方法の実践例」，「作成した教科書，教材」，「当該教員の教育上の能力に関する大学の評価」及び「学生指導の実績」に該当するもの以外の事項について幅広く記入してください。

  - 例 ・ 大学教育改善に関する団体等での活動の概要
  - ・ 教育実績に対する受賞歴 等

※上記にとらわれず，積極的に記入してください。

## 「職務上の実績に関する事項」

- ・ **大学教員の場合**
  - 例 ・ 教育行政機関，大学公開講座，社会教育講座の講師としての講義等の概要
  - ・ 各種カウンセリング業務等の実績
  - ・ 課外活動等の指導者としての経歴・実績・資格
  - ・ 研究協議会などの指導歴
- ・ **小・中学校及び高等学校等の教員並びに教育行政機関等の職員の場合**
  - 例 ・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（教育実習，看護・福祉実習等）
  - ・ 教育行政機関，大学公開講座，社会教育講座の講師としての講義等の概要
  - ・ 各種カウンセリング業務等の実績
  - ・ 課外活動等の指導者としての経歴・実績・資格
  - ・ 学校管理職等としての実績
  - ・ 教育行政機関，審議会，その他の機関における実績
- ・ **企業，官公庁等の研究者の場合**
  - 例 ・ 開発した新製品・製法，作物等の新品種などの概要
  - ・ 取得した特許等の概要
  - ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合，その概要，成果，当該研究者の役割
  - ・ 企画したプロジェクトなどの概要
- ・ **その他，企業・団体関係者**
  - 例 ・ 国際援助・開発，先端技術，国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績
- ・ **情報技術者関係の場合**
  - 例 ・ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法，ソフト・システム開発歴）
- ・ **マスコミ関係者の場合**
  - 例 ・ 執筆した記事の概要
  - ・ 作成した番組の概要
- ・ **医師や看護婦等医療技術者の場合**
  - 例 ・ 症例研究会での発表等の活動
- ・ **福祉その他社会的活動の関係者の場合**
  - 例 ・ 参加した活動や団体の名称，活動内容・期間，本人の当該活動における地位
- ・ **スポーツ等実技関係者の場合**
  - 例 ・ 指導者としての経歴・実績・資格
- ・ **芸術関係者の場合**
  - 例 ・ 企画した公演，展覧会，イベント，ワークショップ等の概要
- ・ **博物館，美術館等関係者の場合**
  - 例 ・ 担当した展覧会の概要
  - ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要
  - ・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（学芸員実習等）
- ・ **その他全般を通じて**
  - 例 ・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（教育実習，看護・福祉実習，学芸員実習，企業実習等）
  - ・ 企業内教育，大学公開講座，社会教育講座の講師としての講義等の概要

※上記にとらわれず，積極的に記入してください。

「著書、学術論文等」

・ 著書

(学術書等)

- 例
- ・ 主に、研究者を対象にした専門的な学術書
  - ・ 解説、注を付けた、学術書の翻訳や古典の現代語訳

(専門書等)

- 例
- ・ 主に、大学の学生や、教育等の実践に携わる人を対象に執筆・翻訳・現代語訳された学術的なもの

(その他)

上記のいずれにも該当しない学術的なもの

・ 論文

(学会誌等に掲載された学術論文)

- 例
- ・ 当該分野の複数の研究者が編集委員になっている学術的な刊行物、研究者が編集委員になっていないが、広く当該分野の研究者に読まれ権威を認められている学術的な刊行物で、原則として複数審査のあるもの
  - ・ 日本学術会議登録学術研究団体、当該分野の大半の研究者が所属する全国組織の研究団体、これらと同等な外国の研究団体が編集する学術誌で、原則として複数審査のあるもの
  - ・ 博士論文（学会誌等に発表されていない場合）

(紀要等に掲載された学術論文)

- 例
- ・ 大学、短大、高専、官公庁に所属する教育・研究機関、学会支部、地方学会、地方研究団体、民間の研究機関が刊行する紀要

(その他の学術論文及び報告書)

- 例
- ・ 単一の大学の教室、研究会が刊行する紀要に掲載されたもの
  - ・ 研究者が編集委員になっていないが、広く読まれている学術誌に掲載されたもの
  - ・ 修士論文で刊行されなかったもの
  - ・ 科学研究費補助金、官公庁等によるプロジェクトや委託研究・調査の報告書

(その他)

上記のいずれにも該当しない学術的な論文

・ 作品・演奏発表（音楽、美術、舞踊）

(国際的な機関や公的な専門組織団体で発表・演奏されたもの)

- 例
- 音楽：ショパンコンクール、日本音楽コンクール、二期会
  - 美術：院展、国画会展、新制作展、創画会展、独立展、二科展、日展、安井賞展

(主要な会場の要請や公的機関等の依頼によって発表・演奏されたもの)

- 例
- ・ コンサート・ホール、美術館、画廊の推薦、委嘱によるリサイタル、アンサンブル、個展、グループ展
  - ・ 都道府県、放送局、新聞社等の依頼、主催による個人又はグループによる発表・演奏

(リサイタル、アンサンブル、個展、グループ展で発表・演奏されたもの)

・ 競技歴・指導歴・審査歴

体育

(国際大会、全日本大会レベルでの競技会での競技歴・指導歴・審査歴)

(ブロック大会、県大会、地区大会レベルでの競技会での競技歴・指導歴・審査歴)

(上記以外の競技会での競技歴・指導歴・審査歴)

音楽

(全国規模のコンクールにおける指導歴・審査歴)

(ブロック大会、県大会、地区大会レベルのコンクールにおける指導歴・審査歴)

美術

(全国規模の公募展、コンクール等における審査歴)

(ブロック、県、地区レベルの公募展、コンクール等における審査歴)

・ 教育実践に関する業績

(指導書、学習指導資料及び教科用図書等)

(幼児・児童・生徒向けで学術的な背景をもつ著書)

(幼稚園・小学校・中学校・高等学校が刊行する紀要等に掲載された論文・報告・解説等)

(その他)

上記のいずれにも該当しない教育実践に関する業績